振り返りシートの構造化が小学生の学習成績に及ぼす影響

○柏原志保¹・井上真弥^{2,*}・岡 直樹³

(¹ 広島大学大学院教育学研究科・² 福山市立福相小学校・³ 徳島文理大学人間生活学部)

キーワード：振り返り，構造化，メタ認知

The effects of the structured reflection sheet on the learning outcome of elementary school children.

Shiho KASHIHARA¹, Maya INOUE^{2,*} and Naoki OKA³

(¹ Graduate School of Education, Hiroshima Univ., ² Fukuyama City Fukuso Elementary School, ³ Tokushima Bunri Univ.)

Key Words: Reflection, Structuralizing, Meta cognition

問題と目的

振り返りとは、目標を達成したり予期される結果を得たりするために、未解決で構造化されていない思考に適用される心的処理と定義される (Moon, 1999)。従来、高等教育や専門家養成で振り返りの効果が検討されてきたが、近年、小学校教育でも振り返りがもたらす学習効果が注目されている。例えば、平成 29 年 3 月公示の新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の一つとして「振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫すること」が提唱されている (文部科学省, 2017)。このように、授業における振り返りの重要性が強調される一方で、具体的にどのような振り返りの仕方が有効であるかは明確にされていない。

確実な振り返りのためには、設問を構造化した設問を用意することが提唱されており (和栗, 2010)、児童がより効果的な振り返り活動を行うためには、振り返りの設問を構造化することが有効である可能性が考えられる。

そこで本研究では、小学校で用いられることが多いワークシートを用いて、振り返りシートの構造化が小学生の学習成績に及ぼす効果を検討する。

方法

実験参加者 小学 4—6 年生 283 名 (4 年生 110 名, 5 年生 98 名, 6 年生 75 名) が実験に参加した。実施に際し、研究目的及び内容と手続き、個人情報保護等の倫理的配慮について教職員に説明した上で、学校長から署名による同意を得た。

実験計画 1 要因 (振り返りシート: 通常条件, ポイントのみ条件, 文章完成条件) 参加者間計画で実験を行った。

材料 授業の進行方法を統制する指導案, 振り返りシート, 事後テストを用意した。なお、本研究で扱った単元は、それぞれ、「小数と整数のかけ算 (4 年生)」, 「図形の面積 (5 年生)」, 「並べ方と組み合わせ方 (6 年生)」であった。

振り返りシートは次の 3 種類を作成した。(a) 通常条件: 振り返りシートは白紙であり、児童自身が自由に振り返りを行うよう求めた。(b) ポイントのみ条件: 振り返りシート上に振り返りのポイント (①今日分かったこと, ②めあての達成度とその理由, ③今日の学習内容と関係していること) を提示し、それらのポイントについて振り返りを行うよう求めた。(c) 文章完成条件: (b) に加え、振り返りシート上に具体的な文章 (e.g., 「私／ぼくは今日の授業で〇〇が分かった」) を示し、文章完成型の振り返りを求めた。

手続き 実験はクラスごとに実施し、手続きは学年間で統一した。(a) 授業: 授業構成や時間配分などをクラス間で統制するため、作成した指導案に則り全てのクラスで第 2 著者が授業を実施した。(b) 振り返りの実施: 対象授業の終盤 5 分間で振り返りシートを用いて振り返りを求めた。その際、他の児童と相談をせずに振り返りを行うよう教示した。(c) 事後テスト: 授業の翌日、学級担任に依頼し対象授業に関する事

後テスト (5 年生 6 問, 4・6 年生 5 問) を実施した。

結果

事後テスト、授業を欠席した 4 名を分析から除外した。なお 5 年生については、普段から独自に振り返りの仕方の指導が行われていたことを踏まえ、今回の分析からは除外した。以降、4 年生 108 名, 6 年生 74 名の結果を報告する。

まず、事後テストの正答率を算出した。学年および振り返りシートの種類別の事後テスト正答率を Figure 1 に示す。学年 (4 年生, 6 年生) × 振り返りシートの種類 (通常, ポイントのみ, 文章完成) の 2 要因分散分析を行った結果、学年の主効果 ($F(1, 176) = 19.86, p < .001$), 振り返りシートの種類的主効果 ($F(2, 176) = 3.72, p = .03$) が有意であった。交互作用は有意ではなかった ($p = .50$)。振り返りシートの種類について Holm 法による多重比較を行ったところ、通常条件よりも文章完成条件で正答率が有意に高かった ($t(176) = 2.68, p = .02$)。

Figure 1. 学年および振り返りシートの種類別の事後テスト正答率 (エラーバーは標準偏差)。

考察

結果より、学習の事後段階において構造化されたワークシートを用いて振り返りを行うことで、メタ認知の発達途にある小学生でもより効果的な振り返りを行うことができることが示唆された。振り返りは、課題遂行の事後段階におけるメタ認知的活動と言い換えることができる。構造化された振り返りシートを用いることで、児童のメタ認知を補い、促進する効果があったと考えられる。

引用文献

- 文部科学省 (2017). 小学校学習指導要領 東洋館出版社
 Moon, J. A. (1999). *Reflection in learning and professional development: Theory and practice*. London: Kogan Page.
 和栗 百恵 (2010). 「ふりかえり」と学習——大学教育におけるふりかえり支援のために—— 国立教育政策研究所紀要, 139, 85-100.